

コーストライン・コミュニティ・カレッジ

—— その時代が到来した構想 ——

ハーナード・J・ラスキンおよびジャック・チャペル

(三 浦 嘉 久 編訳)

(次に訳出するバーナード・J・ラスキンおよびジャック・チャペル⁽¹⁾著“コーストライン・コミュニティ・カレッジ～その時代が到来した構想～”(“Coastline Community College: An Idea Whose Time Has Come” by Bernard J. Luskin and Jack Chappel)は、フレデリック・C・キンツァー博士編集によるUCLA EDUCATOR v.22, n.1, Winter 1981,に掲載されたものである。本論文は私が1983年にUCLA留学中に受講したフレデリック・C・キンツァー博士の演習で初めて接した。キンツァー博士はこの論文を教材に使用されつつ「高等成人教育」の説明をされたのである。また、キンツァー博士は、コーストライン・コミュニティ・カレッジをイギリスの「公開大学」(The Open University)とともに取り上げ、“継続教育またはリカレント教育の先導者として広く認められている機関”⁽²⁾と紹介されている。

二つの大学が放送による「高等成人教育」の先駆例であることに大変興味を覚えた私は1984年5月のある日にコーストライン・コミュニティ・カレッジを訪問し、再び1986年4月24日に訪問した。今回の訪問で受けた印象は、コーストライン・コミュニティ・カレッジは本論文が発表された後の現在、若干の変貌があり、またいくつかの問題が議論されてはいるものの、その基本的なありかたは堅持されており、そして一定の評価を確保しているようであるということであった。

本論文は、わが国の公立短大のありかたを、また「高等成人教育」を構想する場合に色々な参考になるであろうことを思い、ここに取り急ぎ紹介する次第である。なお訳出にあたり原註は割愛し、ここに付した註は今回の訪問で得た知見に基づくものである。この論文により現在のコーストライン・コミュニティ・カレッジを紹介するにはさらに多くの註を必要とするが、この訳稿においてはそのわずか一部のみであることをお断りしておく。

序

私たちが今日、個人として、また組織体としてあるのは遺伝と環境の賜物である。遺伝と環境はともに各個人と各組織体の個性を確実なものとし、以前に存在したもののとの連続性を保証するものである。

このような連続の内に特別な時期がみられることがある。このとき、遺伝に内在する偶然の法則が働き、と同時に社会環境の変化が起こり、これらが一体化するのである。この場合には有意義な社会的な事業が達成される。1976年に実際にこのことがコーストライン・コミュニティ・カレッジの構想の中に起こったのである。コーストライン・コミュニティ・カレッジはこの一体化が成功裡に行われた例であり、また世界各国で展開されていた例につらなるものでもあった。

コーストライン・コミュニティ・カレッジは古くて、新しい。その誕生によりコミュニティ・カレッジの使命と哲学には継承と発展が見られた。もっともそれは新しいコミュニティ・カレッジの創設を必要としたが。

しかしコーストライン・コミュニティ・カレッジの構造は他のコミュニティ・カレッジとは相違があり、この相違は重要である。この新しい大学はその置かれた時代と文化のために創設されたのである。4年間の実績を挙げた現在、本稿で検討するのはその構造と特質である。

B. ラマー・ジョンソン博士は『西部の教育』(*Education West*) 誌に寄稿して次のような考察を述べている。

“変化とは二年制大学に与えられた‘試合の別名’であり、それはジョエット短期大学(Joliet Junior College)の時代から今日の総合的なコミュニティ・カレッジまで続いている。

昔日における2年間の高校拡張。それはただ一校の四年制大学後期課程への準備を施すという単一の任務にすぎないものであった。そして今日のコミュニティ・カレッジ。それは編入教育、職業教育、色々なコミュニティ関連の教育課程、そして多様な地域奉仕活動を擁するに到っている。両者はなんと対照的なことか。”

コミュニティ・カレッジはアメリカ高等教育の独特なそして唯一の改革例として、その誕生以来今日にいたるまで変化の最前線に立っている。次に主な社会的・文化的標高点と、短期大学が行った適応のための時には身をさいなむような変化とを考えてみよう。

“短期”大学(“junior” college)は初め学生に小規模校のもつ親密な環境の中で四年制大学に先立つ2年間の大学教育を受ける機会を提供するものであった。シカゴ大学(the University of Chicago)は学力不足の学生や合否線上の学生の入学を退学させたり留年させていたから、新しい大学の堅固な支持者となった。このような大学の価値は、それが全米にわたって登場したことにより証明された。そしてカリフォルニアはそのなかの先導者であった。やがて2年間の大学教育は四年制大学でさらに学究生活を送ると否にかかわりなくそれ自体が妥当なことが認識された。そして短大卒業者に対しては2年修了の準学士号(the two-year Associate in Arts)が授与されることになった。

1930年代に、多くの勤労者や職業生活に入る若い人々は、不況のため失業のおそれに直面することになった。ありつける仕事といえば、取得する機会が乏しい技術的能力を要求していた。新しい顧客が短大へ行った。ここでは緊急の必要をみたす技術教育および職業教育が導入されるようになった。短大は学術的というよりも、総合的なものとみられるようになった。そして短大は地位の上昇可能性とアメリカ中産階級の強化への明らかな道となった。そしてその使命は拡張された。

第二次世界大戦後、短大は個人的権利と社会改革の推進者として行動することとなった。洪水のような復員軍人と軍属が登録数を飛躍させた。短大が当面した要求は以前果たした

こともないようなことをすることであった。たとえば社会復帰、相談事業、地域活動 (community activities)、成人の、教養および趣味的性質の継続教育である。これらの全てが新しい莫大な数の人々への対応策であり、全てが以前提供されていた機能への追加であった。要するに大学はもっと多くの人々へもっと多くのことを果たしていたのである。大学の施設は拡大し複雑になった。1960年代には新しい大学が一週間に一校の割合で登場した。しかし多く、大学施設を有し、人々を大学という工場に連れてくるものであって、拡張的ではなく、教育を人々がいるところに持って行くものではなかった。1960年代のこれら新しい大学への要求に油をそそいだのが戦後のベビーブームの子どもたちであった。多くはかつて短大の学生であった者の息子・娘であった。しかし次第にこれらの学生が大学から姿を消すころに新しい傾向が現れ始めた。

つまり1970年代の学生はコミュニティ・カレッジに生涯教育を頼りにし始めたのである。“学習社会”という言葉は、そのとき起こっている現象をいくぶん説明するために作られた。これらの増大する数の成人学習者による生涯教育への要求とともに、学習者の生活様式に合致する教育の要求が生まれた。それは時間と場所の点で新たな接近可能性 (access) をもつことである。

私たちは1980年代を成人学習者の時代として迎えているが、基本的な要求、つまり求めるものに対する接近可能性の便益をはかるという問題に直面している。コーストライン・コミュニティ・カレッジが生まれたのは、教育的要求のこの変化と変化する顧客の渦の中でであった。学生は市民であり、キャンパスはその奉仕する地域社会である。

1980年代には、地域社会に基礎をおく教育 (community-based education) という観念を媒介として教育の地域社会における新しい局面がうまれるかもしれない。ある大学は地域社会をかかえこむことになるであろう。コーストライン・コミュニティ・カレッジは拡張型の、地域社会に基礎をおく大学の例である。

キャンパス包括型大学 (the campus-inclusive college) は、これまで市民によく奉仕してきたし、今後も将来のことを検討してみてもそれはかわるまい。科学技術と学習心理学の新しい進展、変化する人口構成、新しい顧客の要求、エネルギーと建設費を含む新しい社会的関心もまた、学習の分野と接近可能性において新しい局面を求める。ある者にとっては物理的な施設が障害である。ある者には多忙な生活のため、ただ日常生活のパターンを崩さないばあいだけに参加可能である。ある者には新しい型は単により便利か、望ましいものにすぎない。それで新しい型式が変化に対応してあらわれるであろうこと、および新しい機構が彼らに奉仕するであろうことは明らかである。形式は機能のあとから来る。多くの者はキャンパスを選ぶ。そしてまた多くの者は、地域を選ぶ。ここで重要なことは全ての大学がこの方式を採用しなければならないとか、必要であるとかいうものではないことである。私たち全てがコミュニティ・カレッジの使命に合致するであろう。重要なことは取得しうる機会が多様なことである。将来さらに多くの機構ができるであろう。決して

これより少なくなることはあるまい。奉仕をうける人々はさらに多くなるだろう。決してこれより少なくなることはない。そして社会は、社会的要求に仕えるための新しい社会的発明を生むであろう。生涯教育は、アメリカ人の生活の質のために不可欠な要素である。そしてそれは重要であるから繁栄するであろう。

コーストライン・コミュニティ・カレッジの構造は、変化に対応できるというにとどまらない。変化は予測されており、取り入れられている。次の段階は可能ならばどこでも障害を取り除くことである。大学は地域社会を育み、代わりに大学は地域社会によって支えられる。私たちは市民の求めるもの、そしてこれに提供するものが分っている。これは大学をその準備期間中指導してきた靈感である。そしてコーストライン・コミュニティ・カレッジは先見の明ある理事会 (a board of trustees) の祝福を受けてその使命を果たそうと努力してきたのである。つまりその使命はあらゆる個人に、適当で良質な教育の機会を各個人の発達可能性の限界まで提供すること、そしてそれは関心のある全ての成人に取得しうるような方法によるということである。

本学はその使命をいかにして達成したか。104 番目のコミュニティ・カレッジとしてコーストライン・コミュニティ・カレッジは、18,754人の学生をもって開学した。開学時の学生としてはわが国では最初の数である。毎学期の学生は平均2万人をこえた。そして、1980年度春学期の学生総数は2万7千人をこえるであろう。これは前年の12%をこえる増加である。しかもこれはカリフォルニア州の提案13号 (Proposition 13) のあとのことであり、収容人員を制限されてのことである。1976年以来14万5千人がコーストライン・コミュニティ・カレッジに学んだ。しかしそれは今も物理的なキャンパスをもっていないのである。

4年の実績と西部スクール・カレッジ連盟 (the Western Association of Schools and Colleges) の完全な認定によりコーストライン・コミュニティ・カレッジは今や全米および全世界に見なされている手本として奉仕している。

なお問題がその性格について引き続き発生している。それゆえ本稿の残りは大学の特色を選んでこれを検討する。

1. 理事会の参加と支持

大学の理事会の貢献と快挙は語りつくせないものがある。複数キャンパス(multicampus)の中で身内の張り合いのため批判が生じたとき、理事たちは、そしてこれに従って職員は固く自ら信ずるところに立ち、この新しい機構を支持してくれた。

2. 管理組織の焦点と柔軟性

このような柔軟性と多様性が認められるこの大学の機構はどうなっているか。最も重要なことは、コーストライン・コミュニティ・カレッジが二つのキャンパス中心の姉妹校であるオレンジ・コースト・カレッジとゴールデン・ウエスト・カレッジと並んで存在しているが、別個の自治的な組織であるということである。

別個かつ自律的な大学としてコーストライン・コミュニティ・カレッジは組織の自由、創造の自由および改革の自由を持っている。大学は中等後教育への接近可能性を創造でき、きわめて多様な学習機会を提供できる。コーストライン・コミュニティ・カレッジは市民である学生の要求に即座にかつ効率的に対応できる。その提供する学習機会は奉仕する地域社会の地域性と文化的多様性に合致している。そして応答は地域社会の中から生まれ、そこに人々は生活している。

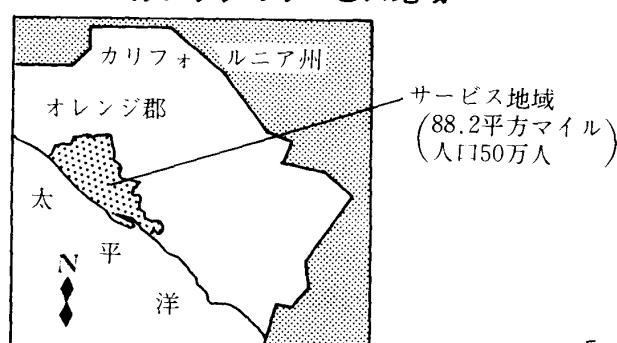
おそらく大学の最も目につきやすい面は、キャンパスが“見えにくいこと”であり、にもかかわらず地域社会における圧倒的な存在感である。それは空気のようにそこに存在する。コースト・コミュニティ・カレッジ学校区内でコーストライン・コミュニティ・カレッジはいたるところに存在する。市部の建物、地域の建物、商業センター、近所の学校、産業団地および市の公園にそれは存在し、105平方マイルの学校区にわたり、重点的に配分された132の地点に存在する。⁽³⁾

大学の書籍部は、都合よくショッピング・センターにある。⁽⁴⁾教材センターは市の図書館にある。授業は事実上10市にわたる学校区内の各平方マイルごとに行われている。

知識は運搬可能である。そこでコーストライン・コミュニティ・カレッジは社会的な変化に対応し、人生自体を豊かにするために、重要な中等後教育の部分として知識を職業生活で使用したい人々の所へ運んでゆく。大学は各コースを多様な形態できわめて多種類の教育方法により提供している。それは地域社会での授業の他に、テレビコース、ビデオテープコース、個人学習コース (independent management and supervision study courses), 職場コース、新聞によるコースである。コーストライン・コミュニティ・カレッジの学生の内、2万人以上は105平方マイルをおおう地点の1400学級に登録しており、他の5千人は色々な個人学習コースに参加していた。

最も重要な特色の一つは、管理の焦点を合わせる (focus) ことができる能力である。大学自体は主たる五つの事務局に組織化されている。入学、ガイダンスおよび情報提供サービス、テレビ講座コース開発 (Telecourse Development), 管理サービス (Administrative Services) および学長事務局 (the Office of the President) である。学長事務局にはコミュニティ・サービスおよび大学業務 (College Activities), 広報 (Public Information), および名誉協会 (the Emeritus Institute) が置かれている。

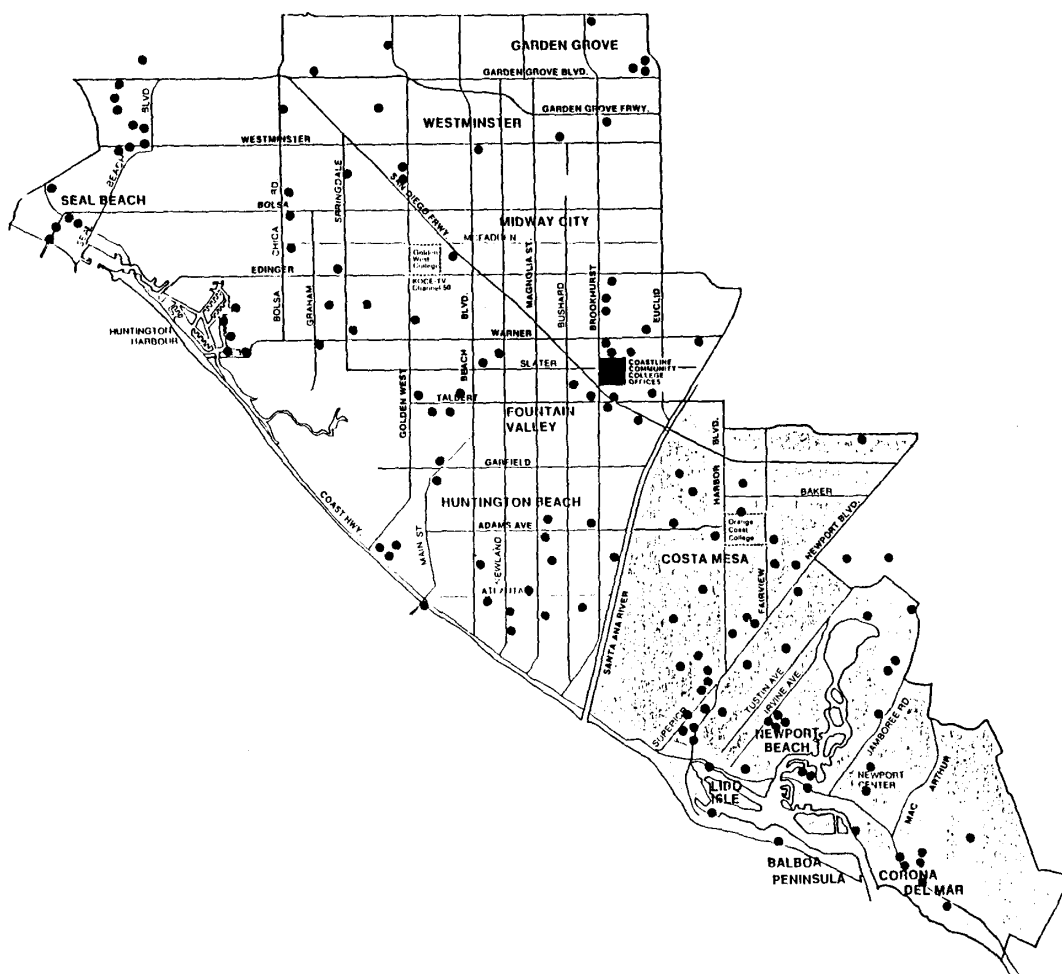
図Aの1 コーストライン・コミュニティ・カレッジのサービス地域



物質的にいえば大学は、学問的区分や部門よりも地理的領域によって構築される。図Aは奉仕する市の地図を示す。⁽⁵⁾10市(ママ)の学校区と約55万の住民の中軸部に、中央管理センターがある。

図Aにおいて示される地理は、管理の“草の根”的性格と焦点の深さを示す。こ

図Aの2 教室分布図 (●教室, ■コーストライン・コミュニティ・カレッジ中央本部)



の焦点は責任、受入、監督、プログラムの質に対する鍵である。

このサービス地域は、四つの二次的な地区に分割される。各々は地域副学部長 (area associate dean)により指導される。彼は直接に学習指導学部長 (dean of instruction)に報告する。

各地域副学部長は、毎日、350学級の運営に責任を負う。そこには6300人の学生が登録しており、30から80までの地域集会所で行き会う。地区を維持することが、中央管理センターが焦点を合わせている支援サービスである。

これらの地域はもともと開発されたとき、奉仕の対象である地域社会の社会・経済的構成により、一部決定されていた。地域副学部長は、地域と“草の根”的接触を維持し、地域社会の特別な要求に仕えるカリキュラム群を作成することに特に責任を負った。それで、これは大学の発展的な考えの実際の適用である。つまり相当重要かつ広い責任を負う総括的な管理者として奉仕する地域副学部長をもった拡散的経営構造がそれである。地域副学部長は地域社会中心であり、その経営する地域の人々を知り、そして地域社会の不可欠な部分として働く。

焦点はまた、コーストライン・コミュニティ・カレッジの名誉協会をとおして高齢者

市民のためのプログラムにも合わせてある。ここには5千人以上の高齢者が登録しており、大学の機能の他の例のように教材と図書の配達を行っている。

一 分散する学習センター、設備および教室

初めにコミュニティ自体をキャンパスすることが決定された。このことは実は過去の例に異なるものではなかった。UCLA、メリーランド大学、インディアナ大学およびその他のように多くの大学のキャンパスは、市自身と同じ広さである。

コーストライン・コミュニティ・カレッジの場合、学校区内にある現在の公共施設や私的施設をあいている時間に使用したり、生徒数減のために閉鎖されている3つの小学校を賃借して、近隣の成人学習センターに転用した。このため物理的なキャンパスを建築するならば、1976年に6千万ドル（また1979年に1億ドル）と見積もられる額が節約できた。かくして必要な設備は獲得された。そのうえ近所の人口が変化するに併せて閉鎖された小学校を近隣の学習センターとして使用する先駆的な実験は成功し、全米的にこのような使用の道を作る経験例を提供した。

正規のキャンパスはないけれど、書籍部と図書館サービスも用意された。もう一度、このことがコミュニティの既存の施設を経済的に利用することにより達成された。コーストライン・コミュニティ・カレッジの学生は誰でもハンチントン・ビーチ公共図書館、近隣の市の図書館、または郡の図書館を利用することができる。図書はショッピングセンターにある書店から購入することができる。ショッピングセンターに書籍部を配置する構想は、他の新しい委託事業と同様に、うまく作動している。

教育メディアサービスの中核施設は、視聴覚支援教材と文書出版活動を提供しているが、これもまたハンチントン・ビーチ公共図書館の内に配置されている。図書館とハンチントン・ビーチ市との協力をえてコーストライン・コミュニティ・カレッジにより運営されているこのセンターはまた、他の地域の非営利団体のために資料提供もしている。これらのことは特別な協定によるものであり、公共施設に対する納税者の投資効果を最大にする。図書館は場所を寄贈し、大学は設備を提供する。このように地域社会の施設を利用することは便利であり、かつ経済的である。

二 柔軟な管理運営構造

重点的な奉仕を地理的な直線構造にそって中央に集中することは、拡散的で地域社会に根ざす“草の根”的発想によくなじむ。

大学は、管理運営のプログラム企画および伝達の間として働く中央本部（a central office）を持っている。平面的な組織構造が、学長事務局との交流を最大にし、主たる責

任の中心部を提供するために創立された。

ティーム・ミーティングが定期的なペースで開かれており、多様な戦略的な要所にある人々が、管理部門の統合を容易にするために奉仕している。

大学は副学部長 (associate dean) レベルの約10の地位を創設した。それは四人の地区担当副学部長 (areas associate deans) を含んでいる。このことは中央本部と地域本部 (area offices) との間における責任の移動を容易にした。

上級の担当者は、大学運営の異なる局面を経験する機会を持っている。このことは個人的成長、大学の究極的な目的に対するより大きな感覚および全体としての組織に対して、経営組織における一つの部局や役割に対してではなく、参加の実感を持つにいたる。

経営構造の流動性は、大学が変化する要求や状況に取り組むことを可能にする。たとえばある副学部長は、昨年はほとんど専らカリキュラム作成の仕事に振りあてられた。次年度は5番目の地理的運当地域への需要により主任の管理者として奉仕する副学部長の任命が必要となるであろう。⁽⁶⁾ 責任、焦点化および目的の明確性が組織の特徴である。

三 開かれた機会

接近可能性については二つの決定要因がある。一つは学習者の要求に合致したコースが取得できることである。他は学習者の参加が可能であることである。

カリフォルニアは幸いなことにつとに市民の権利として無償の教育を提供することを樹立した。ほとんどの教育科目が授業料は無償であり、多様な経済援助計画が大学を通して運営されている。学校区内に保育センター (day-care center) が行きわたり、ある場合にはたとえば両親教育 (parent education) も行われており、両親と子どもが一緒に学んでいる。多くのコースが夜に提供されていることは、勤労学生における時間の悩みを取りのぞくのに役立っている。プログラムの柔軟性とあらゆる形態の伝達方法の利用は機会の開放に重要であるが、これらは次章で論じよう。

全員入学政策 (open-access policy) の結果として、学習集団の異質性が見られる。すなわち高校からただちに進学する若い者から高齢者におよぶ学生が同時に在学している。また他の面から見れば実質的な文盲から博士号をもつ宇宙工学の技術者までいる。かくして学生をなにか重要な特徴によって分類して、集団的に処理することがしばしば必要となる。一例を挙げればこの取り組みの説明が容易になるであろう。

コースライン・コミュニテイ・カレッジは高齢者住民の学習要求にこたえて特別なプログラム、すなわち「名誉協会」を創設した。1979年には高齢者の関心を呼ぶような200以上のクラスが提供された。「名誉協会」はプログラムを提供するだけではなく、統合機関としても活動し高齢者に対するサービスを提供する他の社会的機関と密接に提携して働く。「名誉協会」の興味深く、価値ある副産物は、最近老年学のプログラムを設置したこ

とで、これはコーストライン・コミュニティ・カレッジとカリフォルニア大学アーバイン校(UCI)とにより提供される。この2年のプログラムは高齢者を扱う広いサービス分野のために専門的訓練の機会を提供する。

四 プログラムの柔軟性

コーストライン・コミュニティ・カレッジは総合的なプログラムを提供している。それは大学編入から職業免許・資格（たとえばプラスチック技術とか旅行代理業の）、さらに生活適応や日常生活のためのコースを含む一般的興味をみたすコースまでを含んでいる。事実上どんなコースも開講できる。ただ州の承認と経費に見合う十分な参加者を引き付けることができる必要がある。

学生は興味があればどんな科目に参加してもよい。学位や資格を目的とすることは必ずしもなくてよい。ただ多く見られるのはためしに最初科目を取ってみて目標を変更し、そして系統的な学習計画（an ordered program）を始める学生である。これを現在始めない学生も多いし、将来も始めない学生も多いだろう。単に時間を長くかけるだけの者も多いだろう。

この開かれた方式ではカリキュラム諮問委員会の利用が重要である。名誉協会の「名誉同盟」(Emeritus Alliance) はこのような団体の一例である。カリキュラム諮問委員会は地区担当副学部長に助言をするために組織され、そして主要な職業プログラムはおのこの諮問委員会により検討される。この諮問委員会の構成員は関連の企業または産業から選任される。

五 接近方式の多様性

コーストライン・コミュニティ・カレッジの全学生中20%以上が、個人学習科目 (independent study course)、現在は主にテレビ講座(broadcast television course, telecourse)の単位取得学習 (credit study) に在籍している。このような科目の約10は学校区が所有・経営する公共放送局 (KOCE-TV, Channel 50) を通じて毎週4, 5回ほど提供されている。テレビ講座の多くは学校区により企画・制作されているが、他の大学、つまりコーストライン・コミュニティ・カレッジとともにテレビ連合体 (a television consortium) を組織している会員校からも取する科目も2, 3ある。

テレビを土台にした科目 (television-based course) は多数の学生に到達する可能性を持っている。これらの科目は教育の次元を拡大して提供し、新しい学生を大学に引き付ける性格を持っている。さらにそれらは大学のために高度に目に見える公衆とのつながりを実現する機会を提供する。実際に科目を取っている者よりも科目の一部をたまたま視聴し

ている者の方が莫大に多いからである。

科目はテレビ講座運営部門 (the division of Telecourse Operations) で運営されている。そして各科目は完全な学習システムとなっており、テキスト、学習の手引き、毎週の小試験およびさまざまな学習指定 (assignments) を含んでいる。各テレビ講座は学習の支配人 (a learning manager) であり、学生とは電話による連絡を確保しており、目白押しの援助活動が並んでいる。

調査によれば60%以上の学生がテレビ講座を取っており、学位を取る目的に到達する手助けとしている。主要な目的として自分を豊かにすること、または専門技術の進歩を掲げる者の人数が増加している。広い範囲の題目が提供されており、それには園芸学、生物学、心理学および天文学が含まれている。分かりやすい名称がこれらの科目に付けられている。「家庭園」、「人間の行動」などである。これらの科目の内容は多くの場合、相応するキャンパスの科目の内容に匹敵する。

大学レベルの教育にとってテレビの利用は望ましくかつ効果的ということが毎学期、証明される。放送講座 (broadcast course) は、年長者、既婚者、被扶養者、フルタイムで働いている学生に特に魅力的のようである。

コーストライン・コミュニティ・カレッジではテレビ講座以外の、個人学習のシステムも使用されている。しかし学生数はそれほど多くはない。このようなコースとしては新聞によるコース、郵便によるコース、ビデオ・カセットによる四つのコース、個人学習計画に基づく「企業経営」の二つのコースがある。

コーストライン・コミュニティ・カレッジの個人学習は大多数の学生に到達する主要な伝達方法の一つであり、80年代に顕著な発達をとげると期待されている重要な要素である。大学認可報告書 (the accreditation report) には次のように記されている。

“当大学ではメディア中心の個人学習 (media-oriented and independent study programs)に参加している学生を援助するために教員が敵陣突破を敢行した。教員はここでは学習支配人と称されている。テレビ、新聞および自己教育 (self-paced) により学習する学生のためにとられている手続きと援助サービスは現代の遠隔学習 (learning-at-a-distance)の取り組みにとってきわだった貢献であり、コーストライン・コミュニティ・カレッジが特によく精励している目ざましい例である。”

個人学習はコーストライン・コミュニティ・カレッジの将来の重要な局面となるであろう。

六 多彩な教授陣

学習支配人の仕事には応答、激励、診断および援助が常に含まれている。コーストライン・コミュニティ・カレッジは幸いにして有能な教員のプールであり、それはその奉仕する

地域社会と同じく広く深い。

コーストライン・コミュニティ・カレッジは750人以上の教員を雇用しており、非常勤講師は割合としてごく少ない。教員の半数は他の大学でも教えている専門の教員であり、他の半数はその教えている分野で働いている専門家である。専門家に対する学生の反応は強力な支持を寄せるものといってよく、専門分野で活躍している人から学ぶことは極めて価値があるという意見が多く表明されている。

学生のための安全装置として、そして学生を不適任な教員から守るために、教員、指導教官はすべて、常勤、非常勤とも大学に雇用される際にはカリフォルニア州の免許状を持っていなければならない。免許状はある分野の研究における正規の教育、職業経験および教職経験に主として基づいている。

カリフォルニア州ではたいていのコミュニティ・カレッジが教員評議会（academic senate）または教員会議（faculty council）を設置している。これは専門的事項について教員の代弁者の役を果たす。最近まで州の教育法典は非常勤の教員がこのような団体に参加することを禁止していた。しかしコーストライン・コミュニティ・カレッジの要請により法律改正が行われ、全教員の完全な参加が認められるようになった。コーストライン・コミュニティ・カレッジには主として非常勤の教員からなる活動的な教員評議会がある。

非常勤の教員の雇用は実際特別なものではなく、それは専門的学校の多くについて歴史的特徴であることは事実である。

七 生涯学習

生涯教育の観念は一つの傘にたとえられる。それはあらゆるものを、すなわち伝統的な教育から、職業訓練まで、視野を広げることと内容を豊かにすることまで、生活を切り盛りすることまでおおっている。

この型の学習は職場でも家庭でも教室においてと同様に行われる。成人はそのような学習を援助する能力を持った組織を必要とする。それは一つのコースであれ、研修会の経験であれ、資格や学位にいたるもっとも正式な教育の一部であれ、構わない。

コーストライン・コミュニティ・カレッジのプログラムと労働界との関連は次の分野における職業教育の27のプログラムから明らかである。

会計、理髪、銀行経営の基礎、銀行の基礎実務、銀行信用の基礎、企業経営およびマーケティング、建設調査、電力、未交付捺印証書、有資格保険コンサルタント、公認保険コンサルタント、公認財物災害保険業者、景観管理、法律助手、石油工学、プラスチック工学、購買、品質保証、不動産、販売およびマーケティング管理、秘書学、管理職、および旅行代理業。

コーストライン・コミュニティ・カレッジも管理された状況下にある経験学習(experien-

tial learning) に対して単位を授与する手続きを開発した。特別な履歴学級(a special portfolio class) と、州の機関が免許を与える全ての職業分野における経験を評価する手段が、経験に対する単位 (experiential credit) を与える基礎となる。このコースはすでに中間管理職についている30才以上の成人を引き付けている。

これらの人々にはすでに修得した、または修得できるかもしれない仕事上の技能に対して大学の単位が与えられる。提供されているプログラムには次のものがある。

会計、管理秘書、マーケティングおよび企業経営、一般実務、法律秘書、人事関連業務、販売およびマーケティング管理、そして旅行代理業。

この他に経験に対して単位を与える方途が州の認可が与えられる分野において確立された。それには次のようなものが含まれる。

公認会計士、公共会計士、理容師、土地測量士、専門技術者、ドライクリーニング所有者・運営者、保険清算人、専門請負人、美容師、正看護婦、準看護婦、精神科技術者、景觀建築家、老人ホーム管理者、不動産周旋人、職業指導者。

経験学習プログラムの要求を満たした後に、これら成人の学習者はきわめて大きな割合の人々が四年制大学へ上級の学位を取るために進学し、多くは職場で地位が昇進する。

八 学生の実態

これまでの考察で明らかであったように“新しい学生”の要求があった。ここでコーストライン・コミュニティ・カレッジの学生像を検討するのは有益である。

大学の学生は市民である。すなわち色々な年齢、興味、要求、経歴、能力および社会的・経済的地位の成人である。彼らは現代のアメリカを鏡のように反映する。若い人もいれば年をとった人もいる。一家の大黒柱もいれば主婦もいる。経営者もいれば労働者もいる。就職したばかりの者もいれば、転職者、再転職者もいる。大学生活を始める者もいれば、継続教育となる者もいる。引退が熟練を不要とする生活を意味しない者もいる。多くの者が生活の質を改善するために教育に期待している。

私たちは自分たちの学生についてきわめて多くのことを知っている。“AG & IS”つまり入学、ガイダンス、情報提供サービス事務局が学生の特徴についての研究に専ら従事しているからである。この研究によって大学は選挙区と継続してつながりをもつ。選挙区という言葉はコーストライン・コミュニティ・カレッジではよく使われる。それはある集団の人々を記述するとともに奉仕すべき義務を含む言葉であるからである。

“AG & IS” は毎年多くの研究報告誌を発行している。ここには編入学生の学業成績の年齢分布分析、コース登録、その他の学生の特徴の他に、地域社会の態度、社会経済的要素、市場情報まで明らかにされている。計画の策定を援助するため“AG & IS”は郵便番号に基づきクラスの登録を分析し、学生が最も多く集中しているところにクラスが位置す

るか否かを決定する。地域ごとにプログラムは分析され、総合される。

個人的な特徴と教育目標を反映する資料が収集されてきた。いくつかの例を示すと次のとおりである。

○昨年度の学生の平均年齢は39歳であった。

○学生の4分の1は50歳をこえる層であった。

○1979年に卒業した最高年齢者は76歳で、旅行代理業に新しく勤める男性であった。

○約10%の学生は21歳以下である。

○約85%は6.5単位より少数の単位しか取っていない（1980年春学期に1単位あたりの学生は1.65人であった）。

○登録学生の37%は、編入か職業専攻の学生からなる。

○約3分の2の学生は女性である。

この学生像から大学もまた学生に必要とされるサービスを判定できる。たとえばほとんどの学生はすでにかかりつけの医者を持ち、団体医療保険に入っているから学生の健康対策はほとんど必要がない。学生自治会にはほとんど関心がない。しかし12をこえる学生団体が設立されており、美術、音楽、高齢者問題、ゴルフ、刺繍、スペイン語、旅行業、航行のような特殊な興味を扱っており、大学の正規の教育によって得られる技術や知識を拡張し、向上させている。面白いことに卒業の資格をもつ学生のほとんどは伝統的な学位の取得を望み、これを達成している。

九 学んだ教訓

私たちは色々な教訓を学んだ。その内最も重要なことはコーストライン・コミュニティ・カレッジの企画は他の団体によっては満たされない要求を満たしていることである。次に要求に取り組むときに学生は反響するということを学んだ。かくして実数14万5千以上の人々がコーストライン・コミュニティ・カレッジ創設4年間に参集したのである。

私たちは学生たちが大学施設の性格を持った地域社会を容易に受け入れて楽しむことも学んだ。大学が大学と認められるためにはいわゆるキャンパスは必要ではないのである。理念上の問題はなかった。逆にコーストライン・コミュニティ・カレッジは地域社会の中心部分に位置づけられた。私たちの大学は“非伝統的”なものではないし、また“非伝統的”な学生に仕えるものでもない。コーストライン・コミュニティ・カレッジに行く者は大学になじんでおり、自分の近所で大学の授業に出席するというアイデアは市民にとって申し分なく意義深いことである。市民は1980年代の私たちの学生なのである。

私たちが学んだのは参加が絶対必要ということである。それは理事会の参加、これはコ

人々のおかげで動いているのである。大学はその組織に働く人々がいだく価値観を反映している。ヒューマニズム，奉仕，大学の使命に対する献身がそれである。創造の自由，改革の自由およびほとんど干渉を受けないで実行する自由により，全員の参加が育成されたのである。

十 結論

ラマー・ジョンソンの変化についての言葉が本稿の初めに引用された。結論にあたりもう一つの言葉をここに引用するのが適当である。かれは四つの忠告をしている。これによりコミュニティ・カレッジは“創造的な柔軟性を達成し維持することが容易になりうるしその結果コミュニティ・カレッジはわが国と市民の変化する要求と必要とに適応し奉仕することができるであろう”(ラマー・ジョンソン)。

“1. 一つの組織で生涯学習を含みつつ編入教育，職業教育および地域奉仕活動を提供する総合的な大学としてのコミュニティ・カレッジの使命を確認し，強調しかつ実施せよ。コミュニティ・カレッジが奉仕する国家と市民の要求は引き続き増大し，実際もっと重要なものとなる。もしコミュニティ・カレッジが委ねられた要求に奉仕することができないならば，それは他の機関によって奉仕されよう。この場合たぶんもっと非効率的であり，高価なものとなる。

2. 効率と運営の経済性を高めるためにあらゆる可能な手段をとれ。コミュニティ・カレッジはその直面するたえまない財政危機の現実を認識しなければならない。経済性，創造性および改革は大学運営のあらゆる面において時代の要求であることが明らかでなければならない。

3. 教員の成長と教育方法改善の継続的なプログラムを開始し，発展させよ。コミュニティ・カレッジの成功は基本的には，教育プログラムの質にかかっている。たえまなく教育方法の改善を強調しなければならない。この努力の中で大学あげての参加，創造性および堅実な根拠をもつ改革が奨励されなければならない。

4. コミュニティ・カレッジとしての二年制大学の観念を継持し，拡張せよ。従ってそのプログラムは地域社会の要求と関心に基礎を置き，そして一般市民，理事者，大学管理者，教員そしてまた学生の活発な参加を含むものである”(ラマー・ジョンソン)。

以上のことはコーストライン・コミュニティ・カレッジにおいて成そうとしたことであり，かなりの程度において私たちが達成したことである。さらにはそれは将来においても続行する予定のことである。私たちが検討した特徴は重要である。

①理事会の参加

②管理運営の焦点化

③分権化した管理運営